

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.3
TEL 62-4565

「水が織りなす安曇野今昔物語」講座

5公民館で開催

8月5日(金)より豊科公民館を皮切りに「水が織りなす安曇野今昔物語」講座が始まった。これら講座は来年1月29日に実施される「安曇野検定」の準備講座としても位置づけられ、それぞれの地域の歴史・文化・伝統を中心に、地名や合併、祭り等についても学ぶ機会としている。



豊科公民館 第1講座

豊科公民館の第1回目の講座は、「安曇野の民話力ー現代を生き抜く人にー」と題して行われた。諏訪清陵高校教諭の細川恒氏を講師に招き、現代社会に根付いている諸問題に対して、安曇野に語り継がれてきた民話からヒントを見つけて出すことをテーマに講座が持たれた。前半では、地元豊科に伝わる『重柳のキツネ』、三郷の『室山のデーラボッチャ』、堀金の『常念坊』、明科の『泉小太郎』等の民話が紹介され、後半では穂高の『八面大王伝説』が安曇野の形成に大きく関わったこと等について語られた。

翌日には明科公民館の第1回目の講座が開催された。他地域と違い、明科公民館では、同じ内容を1回、2回、3回と進むにつれて、次第に深めていくという講座が計画されている。明科地域を語る上で切り離せない、犀川の交通を中心に、その周辺で発見された遺跡や、天領のため廃仏毀釈の影響を受けずにすんだ寺について、社会

教育委員の浅野雅樹氏が語った。事前のマスコミ報道で、「安曇野検定」について触れられたこともあり、これら講座には市内外か

インターバル速歩講座開催中

社会教育課の23年度事業として「インターバル速歩講座」が、

「NPO法人熟年体育大学」の協力の下、6月16日より堀金総合体育館をメイン会場に開催されている。「NPO法人熟年体育大学」は「信州大学」、「松本市」、「民間企業」、「市民」が協力してスタートした「産官学民」からなる共同プロジェクトである。受講者は同法人が開発した携帯型カロリー計「熟大メイト」を半年間借受け、ゆっくり歩

きと速歩きを各3分間交互に繰り返すトレーニングを実施している。各自の取り組みと並行して、月1回の講座と運動相談が行われる。運動相談は「熟大メイト」に記憶された日々のトレーニングデータを同法人に転送し、消費カロリーや筋力・持久力の個人成績を解析することにより実施される。同法人の過去の実績ではこのインターバル速歩によって体重、血圧、体脂肪、中性脂肪等の数値の向上が報告されている。

ら大勢の受講者が訪れた。穂高、三郷、堀金地域についても順次開催され、11月中旬まで全18講座が計画されている。

第1回目の講座では体力測定・

血圧検査が行われ、それら結果から「熟大メイト」に目標運動強度が設定された。講座は12月21日まで実施され、栄養講座や野外ウォーキング、筋力アップ講座等が計画されている。

受講者約40人は、各自設定された強度でウォーキングをしながら、健康づくりに取り組んでいる。



インターバル速歩講座 ウォーキング指導

公民館事業紹介 三郷公民館

市内5地域の公民館活動を順次ご紹介いたします。第3回目は三郷公民館の活動についてです。

三郷公民館では、市民の皆様が互いに楽しく交流し絆を深めつつ、学び合い助け合いながら、ともに協力をして地域の力を高めて頂きたいと願い、三郷地域14地区公民館の協力を得て、「三郷祭」と冠して、50余年の歴史と伝統を誇る、文化産業展・運動会・ふれあいコンサート・菊花展・芸能発表会という一連の行事を中心として、地域館ならではの活動を展開すると共に、生涯学習の場として多くの市民の皆様のご参加を賜りご利用を頂いています。

今回は、好評を頂いて継続している講座をご紹介します。



「ふるさと講座」大鹿村北側露頭にて

ふるさと講座

講座はマイクロバス利用の一日限りで県内各地を巡る小さな旅で、毎回地学は木船清先生植物は柴野武夫先生を講師に迎え三郷地域の人の講座として実施している。昨年度は7月7日の新潟県境の関田峠(信越トレイル)を歩いた北信濃の自然観察講座に始まり、市民の一体感の醸成には、先ずは他地区を知る事から始めようと、明科の地理や歴史・文化の一端を訪ねる講座を館長のガイドを交え8月6日に行いました。更に、9月15日には木祖村の水沢天然林を探訪し、山の成り立ちを木船先生、自然林と人工林の植生など植物観察は柴野先生に教えて頂き、水と緑と空気の涵養の大切さを学びました。10月20日には中央構造線の安曇・北川の露頭を訪ねて大鹿村へ赴き、大地の躍動の痕跡を中心に、秋葉街道に関する歴史や植物の勉強をいたしました。本年の5月18日には、佐久の歴史文化と自然探訪で津金寺から龍岡城と新海三社神社や貞祥寺及び旧中込学校に鼻顔稲荷や八幡神社等を訪れながら安曇野に繋がる歴史の流れに加え佐久独自の地理や植生について学びました。7月20日の講座は富士見高原の

自然と歴史を探訪したほか野辺山電波天文台で宇宙に想いを馳せ、井戸尻考古館で見聞をした縄文の文化にカルチャーショックを受けました。9月は堀金と穂高の歴史文化を、10月は木曾の滝を巡る講座を予定しています。

最大のイベント

三郷祭

三郷地域における文化、産業、芸能、スポーツ等の振興と共に、地域住民の親睦、融和を図るため今年も次の事業をおこないます。

文化産業展

於文化公園体育館 10月15日(土) 16日(日)



運動会

於文化公園グラウンド 10月16日(日)



ふれあいコンサート

於三郷中学校講堂 10月22日(土)



菊花展

於三郷公民館ロビー 10月25日～11月3日



芸能発表会

於三郷公民館講堂 11月3日(木)



この他に、「ひまわりクラブ」や「あづみ野つくり隊」等、諸々の活動を行うほか、スポーツ大会等体育活動や様々な文化活動を行っています。

グループ紹介

布の絵本「あやとり」

代表 三澤 知子
平成14年2月に、旧穂高町の図書館講座で布の絵本の講座が開催されました。

布の絵本の提唱者であり、全国に布の絵本の普及をされている東京の渡辺順子先生が、絵本「あれあれ」を二日間で作成し完成するというものでした。

そこで参加して、布に一針一針こつこつと縫い苦労して形になっただけに、自分だけのどこにもない一冊となり大切に持ち帰る人、参加者の顔は皆満足げでした。



「あやとり」のメンバー

古きを尋ねて

③大逆事件と明科

明治42年6月13日、明科駅に一人の男が降り立ちます。明治35年国鉄篠ノ井線が全線開通し明科駅が開業し、これが契機となって国営明科製材所が明治42年に設置されました。この製材所の機械据付工として赴任してきた宮下太吉(甲府出身)です。

宮下は以前から社会主義者として警察からマークされており、明科に来てからは明科駐在巡查、小野寺藤彦が徹底的に監視しています。宮下は監視下で爆裂弾の材料を集め、11月3日試作した爆裂弾を会田川べりの対岸の崖に投げ試験実験を行っています。(実験の日や場所には別の説もある)宮下の同僚などからの情報で爆裂弾製造を察知した警察は、明治43年5

う物か知り、ここので終わってしまうのが残念でなりません。そこで有志を募ったところ、数名の希望者がありサークルとして現在に至っています。

布の絵本の特徴は、身近な材料の布、フェルト、ひも、ボタン、マジックテープ、ホック、フラスナー等を使って数、色、形でお話しやおもちゃを作っています。

また、布の絵本のすばらしさは一、絵本の楽しさを知り、触れ合

いが親子で持てる。

一、布の持つ柔らかさ、暖かさを感ずることが出来る。

一、物・色・形・数の認識の手助けになる。

一、自立を楽しみながら助ける(ボタンはめ、スナップ止め、ひも結びなど)。

一、乳幼児の言葉をうながすきっかけづくりとなる。

など、これ以外に自分たちの楽し

月25日、宮下太吉を逮捕、同士である新村忠雄、菅野スガ、古川力作も同時に逮捕されました。当初はこの4人だけの事件でしたが、6月幸徳秋水を逮捕し、これを契機に時の桂内閣は社会主義運動の撲滅をねらって全国の主義者数百名を検挙します。

検挙者のうち26名が大逆罪で起訴され、大審院(現在の最高裁に



爆裂弾の試爆地といわれる「なつな沢」の涯

当たる)で非公開裁判となり、ひとりの証人調べもなく、12月10日に始まった裁判は翌1月18日に判決という異例なものでした。全員が有罪で、幸徳秋水を含め24名が死刑判決を受けますが、翌日なぜか12名は恩赦で無期懲役となりました。判決から一週間を待たず1月24日に幸徳ら11名が、翌25日に菅野スガの処刑が行われました。しかし、この事件は、核心の爆裂弾事件に関する実況見分も行われず、実験の場所、日時さえ特定されていない、真相が明らかでない事件で、宮下ら4人を除けば、全くの冤罪事件であるというのが歴史学上の定説となっています。事件発覚の地である明科で、この地でいつたい何が起きたのかを明らかにし、この事件を風化させないために歴史民俗資料館に大逆事件コーナーを設け資料の展示公開を行っています。

地区公民館だより

寺所地区公民館

寺所地区は、豊科インター南交差点から北へ約1.7km、長野道から西側約1kmのエリアが寺所地区です。戸数368戸、人口966人(8/1現在)とあまり大きくない地区です。

地区内にはスワンガーデン、各種飲食店と大型店カインズホーム等があり日常生活では大変便利です。

区民は温厚で気寄りがよく、特に高齢者のまとまりと、行動力には素晴らしいものがあります。ただ、ご多分にもれず少子高齢化が進んでいます。

公民館活動は「健康で心豊かに暮らせる地区づくり」を目標に据えて取り組んでいます。市民運動会、地区公民館対抗スポーツ大会に積極的に参加し、地域の交流を図っています。今年度は「安曇野祭り」で32回目の出場で初入賞を果たしました。

地区内では伝統行事を継承した七夕祭りとお饅頭作り、三九郎、やしよま作りを高齢者の指導で実施し、親子参加で三世代交流の輪を広げています。

スポーツ面では毎年8月14日に隣組対抗ソフトボール大会を開催しており、今年も11チームが参加



寺所祭りでの七夕祭りの様子

して熱戦が展開されました。

区民が楽しみにしている行事として、日帰りバス旅行があります。

今年度は10月23日に計画しています。また、敬老会も敬老の日に予定していますが、内容を工夫したことにより、年々参加者も増加しています。

文化祭も昨年度初めて企画しました。新しい事業の開催は、不安ばかりが脳裏をよぎり決断できま



隣組対抗ソフトボール大会

た。思いがけない書家や画家・芸術家が現れて、盛やかな文化祭となりました。新しいことに一歩踏み出す勇気を教えられました。今年

は11月中旬に開催します。公民館活動は、やる気のある人とやってみる気楽さもあり、「何故やるのか」と異論が出れば立ち止り議論をし、進むことも退く

私は一生懸命

「私の押花作りの原点」

最初に押花の美しさに感動したのは、小学生の時だった。担任の白井国明先生が、理科の時間に見せてくださった標本の押花がそれであった。かなり大きな台紙に植物が1種類ずつ細く切った紙で丁寧に止められ、隅にラベルで貼ってあった。ラベルには植物の名前や分類が書かれていたと思われるが、その文字は読めなかった。しかしそこに未知の世界、アカデミックな香りを感じ、変色しつつも元の姿を留めている植物の端正な美しさに心を動かされた。標本は一枚一枚丁寧に不透明なセロハン紙で覆われ、箱の中に収められていた。それを大切そうに取り出す先生の仕草にも、あたかも宝物でもあるかのような魅

こともできる。また、他団体との連携も図り易いので、堅苦しく考えず根気良くやることを学びました。

寺所地区公民館の進歩は女性の役員選出と、役員が複数年続けることになったことだと思っています。「継続は力なり」を信じて取り組みたいと思います。

(寺所地区公民館長 内山金藏)



曾山 正子

力と憧れとを覚えた。学校で教わった押花の作り方は、新聞紙や雑誌に挟んで乾燥させるものだった。押しした植物は、最初の瑞々しさを失い色褪せてくるが、押花にしてみると見慣れた路傍の雑草にも整った形状があり、揺るぎない存在感があった。乾燥シートを用いて花の色を残す「押花絵」も魅力的だが、私と押花の原点を辿っていくとあの小学生の頃に覚えた感動に至る。思い出と同様に色褪せつつも形をとどめる押花は、どこか懐かしくいとおしいものを感じさせる。